

rongorongongo

茨城キリスト教大学
文化交流学科

題字の背景画像は rongorongongo の文様から作成したものです

茨城キリスト教大学文学部文化交流学科 〒319-1295 茨城県日立市大みか町6-1-1 TEL 0294-52-3215 FAX 0294-52-3493



ケラニア大学での交流会にて

文化交流体験

2月8日から20日まで「文化交流体験」を履修する学生達がスリランカ・香港に行ってきました。

久々に味わった達成感
文化交流学科2年 遠藤緑子

大学生のうちいろいろな国を訪れたいとは思っていたが、実行力のない自分には難しいことだった。せめて機会があれば、と思っているところでの文化交流体験の話聞き、参加することにした。スリランカと香港という行先は楽しみでもあったし、不安でもあった。どちらかという不安の方が大きかった。体調を崩さないで乗り切れるか、2年生が少なく中で先輩や後輩と仲良くできるか、などここには挙げきれないほどである。

しかし、そんな不安もすぐになくなった。コロンボに着いたのが真夜中。ビザの関係で入国審査の場所を行ったり来たりと入国はスムーズにはいかなかった。疲れもあつたせいのか次の日のケラニア大学との交流会を正直憂鬱だと思いつつ、その日は眠りについた。ケラニア大学交流会は文化交流体験の中でも一番の不安要素だった。人見知り、というより人と話すのが苦手な自分一人でケラニア大生と交流できるのか不安で仕方なかった。しかし、ケラニア大生は一生懸命日本語で話しかけてくれたし、暑くないか、ご飯は合うかなどとこちらを気遣ってくれた。持っていたシンハラ語の指さし会話帳を使ってこちらも何とかコミュニケーションを取るようにした。単語のつなぎ合せ程度ではあるがシンハラ語を使うとケラニア大生は嬉しそうにしていた。簡単な挨拶くらいは暗記すればよかったかもしれない、と少し後悔している。昼食のカレーは初めて手で食べるのに挑戦したが、コツをまだ聞いていなかったのでも上手く食べられなかった。手で食べることに最初は躊躇したが、「郷に入つては郷に従え」ということで見よう見まねで

【4面へ続く】



日立風流物北町支部
子ども鳴物による実演



開会の挨拶・染谷教授



日立風流物保存会西町支部
子ども鳴物による実演

1月29日、「第五回ひたち学への招待—ユネスコ文化遺産日立風流物再考—」が開催された。日立風流物は2009年にユネスコ無形文化遺産に登録されたが、外部に高く評価されているわりには地元での認知度は低く、それを再考するためこのシンポジウムは開催された。前半は11号館ラウンジにて日立風流物北町支部子ども鳴物、日立風流物保存会西町支部子ども鳴物による実演、後半は11203教室での文化庁文化財調査官の前田俊一郎氏、民俗芸能学会代表理事の山路興造氏、日立市郷土博物館学芸員の清水博之氏、本学教授の染谷智幸氏による報告が行われた。

第5回 ひたち学への招待 「ユネスコ文化遺産 日立風流物再考」

12年4月号目次

- ◆ 1面・4面 文化交流体験
- ◆ ひたち学への招待
- ◆ 2面〜3面 学科教員紹介
- ◆ 5面・6面 沖縄交流会
- ◆ 沖縄留学
- ◆ 6面 中国からの交換留学生
- ◆ 7面 海外文化研修・スリランカ
- ◆ 一年を振り返って
- ◆ 8面 編集部員募集
- ◆ 編集後記

文化交流学科 教員紹介

細谷瑞枝先生



担当授業は「ドイツ語」「地球市民論」「欧米の文学」に1年生の基礎演習とゼミです。超個性派集団のC科教員の中でピカイチの普通人(自称)。普通であることが目立つってどんな学科なの、C科って？

そんな私が今年取り組みたいことは、まっとうに研究。昔話に出てくる異界についてまともった成果を出すべく頑張ります。また、来年の春休みに「文化交流体験」でラトヴィアとドイツに行くので、こちらも参加する学生とともに準備をしっかりと充実したものにしたいと思っています。ヨーロッパに行きたいと考えている人は、まずは説明会に来てくださいな。

瀧野修先生

大学と大学院ではドイツ文学を専攻しました。20世紀のドイツ演劇を中心に現代文学を勉強しましたが、現在は音楽や絵画などの芸術領域にも考察の範囲が広がっています。またドイツだけではなく広くヨーロッパの文化も研究対象になっています。

宮崎晶子先生

新人生のみなさんはじめまして、宮崎晶子と申します。この大学に来て2年目を迎えました。専門は東南アジア美術史で、カンボジアの観世音菩薩像などについて調べています。趣味は美術館巡りや東南アジア料理を作ることです。日本では

なかなか手に入りにくい食材もあるので、カンボジアに行った際にはスパイスなどをたくさん買っています。

昨年は、授業が5月から始まるなどイレギュラーなスケジュールでしたが、今年は何事もなくホッとしています。



今年の目標としては、

岩間信之先生

文化交流学科の岩間信之です。地理学や観光学(観光地理学)のC科を受

大学にも慣れたのでもう少しゼミを充実していきたいと考えています。文化交流学科の学生はさまざまな個性を持っているので、授業をしていてもとても楽しいです。1年生と3、4年生ゼミを担当しているのですが、学生それぞれの長所を伸ばしたいと思っています。

者問題などを調査しています。今年の抱負は以下の通りです。
 ①被災地での復興支援活動および調査に力を入れる、
 ②河原子海岸で実施している夏の海のイベントを昨年以上に成功させる、
 ③電車通勤に切り替える。

染谷智幸先生



専門は日本文学、特に江戸時代の小説。韓国の文学、特に朝鮮時代の小説。

「今年取り組みたいこと」は、日韓交流の仕切り直しです。昨年の震災と原発事故によって風評

被害が広がったために、韓国からの留学生がほとんど来れなくなっていました。そろそろ、落ち着いてきましたので、韓国からの留学生を再度呼び入れるべく、色々と運動をして参りたいと思っています。まずは、「来てくれろ！」と言つても難しいので、こちらから乗りこんで「ほら僕ら普通に生きてるでしょ、大丈夫だよ」と言ってくるこ

ドイツ語の学習を始めたのは、高校2年生のときでした。第2外国語の履修が必修であった、当



珍しい高校に入学した私は、独・仏・露・中の選とです。それから「イロンシキヤマルロ！」(このう時期だからこそ)交流しようとも思ってきたいです。

択肢の中から迷わずドイツ語を選びました。というのも、中学2年で初めてJ・S・バッハの壮麗な音楽と出会い、子ども

ながらにも心揺さぶられる経験をした私は、バッハを生んだドイツという国の文化や歴史に対する興味を既保持っていたからです。そして高校3年のときには第1外国語を英語からドイツ語に変更し、大学受験の際も英語ではなく、ドイツ語で受験しました。40年以上も遠い昔のことです。さて、「今年取り組み

たいこと」の中で最も重要なのは、モノを増やさないようにする、ということとです。とりわけ毎年のように増え続けてきた書籍とCDは、それらを読

んだり聴いたりするため、時間も限りがあり、そもそも、その収容能力も限界に達しています。《断捨離》を実践する頃合いかなあと思っています。またできれば4年ぶりにヨーロッパに行つて来ようと思つています。最新情報や資料の収集、そして何よりもリフレッシュのために。



空手部に所属しています。世界で面白いグッズや缶コーヒの食玩などを集め、研究室に飾っています。

私は、街づくりや中心商店街や地域コミュニティの活性化、買い物弱者

被災地では、若い人たちのパワーを求めています。いま、全国の大学生たちが被災地に結集し、様々なボランティア活動を展開しています。彼らの姿をみるにつけ、日本の若者の持つ潜在能力を感じます。茨城キリスト教大学の学生たちも、どんどんボランティア活動に参加し、活躍してほしいと思っています。

堀口悟先生



今、第一の研究テーマは、香道を中心とする日本古典文化です。日本の伝統文化と古典文学とを融合し、実践と理論との統合を目指した研究をしています。同じ趣旨で

授業では「競技かるた」の実践と日本文学との関連もお話しすることがあります。また、日本古典文学そのものも講義します。その他、自文化と異文化をつなぐ重要なツールとして、留学生に日本語を教えたり、日本人学生に日本語の教え方を教授したりする授業をいくつか持っています。

ましよう。今年目標は、水戸市立博物館に、素晴らしい香道関係書が蔵されていますので、それを広く紹介したいと思っています。また、韓国で開かれる日韓シンポジウムに参加の予定です。

今年目標は、水戸市立博物館に、素晴らしい香道関係書が蔵されていますので、それを広く紹介したいと思っています。また、韓国で開かれる日韓シンポジウムに参加の予定です。

和泉涼一先生



はじめまして。専門はフランスの文学ですが、この大学では西欧の社会や文化についての授業も担当しています。みなさんがフランスやヨーロッパのことに関心をもったらいひ話をしにきてください。いまはアジアがブームのようですが、ヨーロッパの成熟した文明からはまだまだ学ぶことが多いと思いますよ。現在取り組んでいること……最近は何も頭も急激に衰えてきましたが、なんとか頑張りたいと思っているのはつぎのこ

なかなの野心作なのです

志賀市子先生



私は中国の宗教研究を専門にしている、授業では文化人類学、中国の歴史と文化、中国語などを担当しています。中国にはどんな宗教があるのか、どんなおまじないや占いがあるのか、もし興味があつたら私の講義やゼミをとるか、あるいは研究室に遊びに来てください。私の研究室には邪気を払う「風水鏡」や彼女、彼氏がみつかるおふ

とです。①アメリカの有名な映画批評家にアネット・インスドーフというひとがいますが、そのひとの研究書で『フランスワ・トリュフォー』と『ロコレストと映画』といういずれも大部の本があります。その翻訳を刊行するつもりでジタバタしています。②ジェラルド・ジュネットという文学理論の大家（「おおよ」じゃなくて「たいか」と読んでね）の著作『芸術の作品』の続編を翻訳刊行しようとして苦勞しています。詩学と美学をつなぐようにして従来の芸術哲学に見直しを迫るもので、なかなかの野心作なのです

なかなの野心作なのです

森謙二先生



この10年、沖縄が研究対象になつている。沖縄に行くたびに思うのだが、沖縄には二つの顔がある。一つは、風光明媚な海と優しい人間がいる風景である。もう一つは、戦争の傷跡を残し多くの米軍基地をかかえた風景である。沖縄が本土復帰を果たすのは昭和47年である。その後から、本土資本は沖縄の土地を離島の隅々に至るまで買

が、いかんせんこちらの頭が悪いので、ほとんど八方塞がりの状態です。遅々として進みません。今年の上記のうち一冊だけでも刊行にこぎつけたいと虚しい努力を重ねています。教科書もつくりたいのですが、そろそろ寿命も残り少なくなってきたし、いくら時間があつても足りません。あせらずにポチポチやるしかありません。

てみませんか。

猿田知之先生



藤田悟先生

文化交流論、基礎演習、比較教育論、世界の英語などを担当しています。

かひは英語学・言語学の研究をしてきたみたいですが、いまではすっかり様変わりして……。

占めていった。離島のある島では、島の半分土地を本土資本が買占めたことがある。しかし、バブルの崩壊、リーマンショック以降、その土地のアメリカの観光資本に譲渡される例も出てきている。鳩山前首相が沖縄における米軍展開の縮小を呼びかけたが、進歩的だと言われている新聞社でさえ、頭から「できっこない」という否定的な態度をとった。「できっこない」という態度をとった新聞社は、沖縄における土地の買占めを知っているであろうか。沖縄を見る時は、「基地反対」だけを見るのではない視野が必要だとも思います。

新しいことをはじめるのは比較的得意ですが、「上手くやる」というのはなかなか難しいなど頭を抱えています。最近、自転車に乗りはじめました。しばらくやっていなかた陶芸も再開しようです。「文化交流論講義」という本をまとめたのと密かに考えています。いろいろはじめてどうなることか。

てみませんか。



ゴールの街とインド洋

食べた。午後はケラニア大生達とお寺見学をした。スリランカ仏教(上座部仏教)のお寺を初めて見て、日本のお寺、仏教との違いを認識した。イスラムニヤ精舎もスリー・マハー菩提樹もマナーには厳しかった。ポロンナルワの遺跡でもそうだったが、熱い砂の上を素足で歩くのが一番大変だった。これも「異文化体験」であると考えて乗り切った。

ゴールの街とインド洋
ゴールの街とインド洋
ゴールの街とインド洋
ゴールの街とインド洋
ゴールの街とインド洋
ゴールの街とインド洋
ゴールの街とインド洋
ゴールの街とインド洋
ゴールの街とインド洋
ゴールの街とインド洋

乗る途中で何度か辛いと思つたし、アシスタントに頼つてしまいたいとも思つた。しかし途中で諦めるのは一生の悔いになると思い、自力で頂上まで登つた。今は宮殿の跡地しか残っていないが、登り切つた時の達成感はインドア派の私にとって

久々に味わうものだった。その後のポロンナルワの遺跡巡りは体調が良くなかつたために余裕を持つて見学できなかったのが残念でな



↑キャンディーにて

↓スパイスガーデンにて

驚いた。ダンブツラは入り口の金の仏像に「え？」となるものの、石窟の中はスリランカ仏教がぎゅつと詰め込まれたような感じがある。その後スパイスガーデンの売場でその日最高額の買い

た。また、この日はみんなに心配と迷惑をかけてしまったこともあり、体調管理と準備の甘さを思い知らされた。5日目のダンブツラも石窟までの道のりが意外とハードだった。スリランカではフルーツに塩と唐辛子パウダーをまぶして食べると聞いたときは驚いた。ダンブツラは入り口の金の仏像に「え？」となるものの、石窟の中はスリランカ仏教がぎゅつと詰め込まれたような感じがある。その後スパイスガーデンの売場には分かりやすい説明

物をしていくことも今となつては笑い話である。キャンディーの仏歯寺は最も印象に残つた場所の一つである。仏歯の間の前には大量の花が供えられ、廊下を埋め尽くす勢いで拜む仏教徒の方々、その熱気などが忘れられない。もしかしたら、お祈りしている人たちには観光客がへらへらと入つて来るのも本当は嫌なのかもしれない……と思つてしまい、仏歯の間からは数枚の写真を撮つた後すぐに離れた。

イメージが残っている。ゴールの街はスリランカらしさはあまりない。インド洋に面した要塞と時計台、オランダによつて建てられたVOCの倉庫と教会、イギリス国教会など

や写真もあつたので紅茶についての知識が増えたと思う。初めて飲んだ「セイロンティー」も美味しかった。タンゴールの海は綺麗だった。海で1日のんびりするのもいい。ただ海に落ちて波に飲み込まれそうになつたことはいろんな意味で印象に残っている。



香港のホテルはもちろん、日本人御用達なお店には日本語も充実している。香港は日本人に優

た。今は綺麗な建物が観光客を引き寄せるゴールだが、植民地となつたときはどんな街だったのだろうか。スリランカの歴史をもっと調べる必要がある。面白いものもいっぱいあった。そして夜、スリランカを発つた。最初は不安だらけで帰りたいと思うこともあつたが、慣れると帰り難くなる、そんな国だった。

ヨーロッパの影響が強く残つている。スリランカらしさはないが、残された建物が植民地とされたスリランカの歴史を現しているように見える。ヨロツパの影響が、とても過ごしやすかつた。香港のショッピングモールもかわいい服や靴、地下食品街、など日本でも見慣れた光景があるようだった。飲茶店で人気の飲茶争奪戦に出たり、香港島で夜景を見て帰ろうというときに外国人女性に道を聞かれて送つた後、自分たちが迷子になったり、と貴重な体験がたくさんできた。日本に似ているようで似ていない、香港はそんな所だった。

香港の夜景

スリランカは同じアジアではあるが、日本にはない雰囲気がある。それは他のアジア諸国にも言えることだが、上座部仏教と気候を土台に育つた歴史と文化、ヨーロッパの植民地化による街の変化と民族問題など、

見るべきもの、知るべきものがたくさんあつた。香港にも同じ東アジアとして似ている面もある。街にどんな歴史があつて発展したか、どんな気候、習慣によつてその食生活が成り立ってきたか、いろいろな考えさせられた。たとえ旅先で嫌な思いをしたとしてもそこでは正しいマナーだったりするかもしれない。行く前も、滞在中も、帰国してからも考えごとが尽きない。そんな文化交流体験であつた。



香港の夜景

プライベート ではなく

文化交流学科
3年

望月 勇希

沖縄交流会での感想は、私は1回沖縄に行ったことがあったのでどういふ雰囲気かは、だいたいい分かっていました。そのときは、

交流ではな
くただ沖繩
に遊びに行
つただけだ
つたので、
思っていた
通り海がき
れいとかゆ
つたりして
いる感じ
でした。で
も今回の交
流会に参加
して沖繩の
人は、プラ
イベートの
時に普通に
1、2時間
遅刻しても



平気で、待っている人も怒らないといった、また違った沖繩のことが知れてよかった。また同じ日本なのにここまで違う文化があったのは、びっくりした。
プライベートではなく、こういった企画に参加してプライベートでは知れないことが知れて楽しかったし、沖繩のことが知れてとてもためになりました。

自分自身 としても

沖繩大学 法経学部
法経学科3年

大城 佳奈

私は、初日は途中参加だったのでプレゼン

には参加出来ずイバキリの特徴について

ことは出来ませんでした。

しかし、茨

城キリスト

教大学の学

生との会話

のなかで茨

城島のイメ

ージを掴むこ

とが出来まし

た。飲み会では、

沖大生とイバキリ

生の仲が深まり、うま

く2日に回すことが出来

たと思います。

交流会2日目は、ヤチ

ムン通り・平和通り・浮

島通りを散策しました。

私自身、行ったことがない場所だったので新鮮で、イバキリ生とともに

沖縄交流会感想

さあ、沖縄へ行こう！

本学と沖縄大学交流の記録



沖縄の文化について学ぶことが出来ました。交流会を通してイバキリ生に沖縄のことを知ってもらうことができ、私自身の学習にもなり充実した交流会になりました。

答えを 見つけた！

一年間の交換留学で
文化交流学科
3年

小野崎 綾香

今回、沖縄留学をした理由として3つの理由がある。1つは、

沖繩が好きで文

化や言語を知

りたい。2

つめは、自

立をした

い。3つ

めは、自

分の知ら

ない土地

へ行き、

自分という

価値を見つ

け、そしてま

た新たな友達を

増やしたいと思っ

たからだ。

私は、沖縄留学すると

いう目標を高校の時から

掲げていた。そのため

に、文化交流学科へ入学

した。それからの日々は、

単位をなるべく多くと

り、バイトに明け暮れた。そして、2011年

に夢は現実へと変わった。この段階では、まだ夢が叶ったとは思っていない。沖縄へ来てからは、泣く日々が増えたが茨城の友達に励まされ、めげずに頑張れた。このとき、初めて友達という存在がどれだけ大切かということに気がつく。それまでの私は、ポジティブに見えてかなりのネガティブ思考。大学の友達を悩ませたこともあった。だが、こんな私なのに応援してくれる。とても心が暖かくなった。

6月になりやつと慣れてきた。そこで、現代音楽サークルに入ることを決意。最初は、顔出し程度で全然慣れずまともやへこたれた。しかし、熱心に話かけてくれる先輩達に出会い次第に現音に慣れていく。いつのまにか部室に居座るようになり、ほぼ毎晩呑んでいた(笑)。きつと、みんな私のこと遊んでいると思っ

ている。だが、留学生として目標を掲げたことは決して忘れていない。当

たり前だが、茨キリとは違う学生生活を送っていた。

後期に入り、11月に学祭があった。先輩に誘われバンドを組んだ。毎日夜毎晩、指にタコを作りながら練習した。実は、こ

こまで練習するのは初めて。結果、人生の中で一生と言えるくらいの思い出が出来た。11月は、私の誕生日もあり現音メンバーによるサプライズパーティーも開かれた。大人数で祝われるのは初めて。嬉しすぎて逆に泣け

なかった。

その後、ほぼ毎日現音メンバーとすごし、授業も一緒に受けたたり楽しい沖縄生活を送ることが

できた。





それぞれ掲げた目標は、達成された実感した。文章を見ればまだまだ甘いと思うかもしれない。しかし、私にとつては、とても大きなもの。一番見つけたかった答えが見つかった。この1年でたくさんさんの経験を、傷ついたりもした。だが、全てをこれからの自分のために活かせる。ここまですべてに活かせる。ここまですべてに活かせる。ここまですべてに活かせる。

茨城キリスト教大学に留学して…

私の人生で一番貴重な財産

天津師範大学 趙慢

日本に来て半年になりました。この半年を振り返ると、たくさんさんのことを経験して、たくさんさんの人と出会いました。それによって、ずいぶん多くの知識を勉強にして、ずいぶん深い感慨を心の底に残しています。

日本へ留学するのが私の夢でした。紆余曲折を経て、ようやく日本にきました。最初来た時、言語もうまくできなくて、生活環境も慣れなくて、大変でした。しかし、この半年を過ごして、本当に心から来られてよかったです。と思っています。

もともと、外国での生活では、言葉が一番重要だと考えていました。言葉が通じると、相手の話



ベトナムからの交換留学生 ヱィーさん(右)と

した意味が分るし、言いたいことも理解できました。だから、最初は一生懸命日本語を勉強して言葉の表現方法を真似しました。しかし、今の考えは全く変わりました。

言葉より、もつと大事な文化、風俗、人間の考え方を理解しなければならぬということ。たとえば、中国では、友達同士、家族の間の距離は

すぐ近くで、物を借りる時、ただ「これを使うよ」などの簡単な言葉で、勝手に行動します。相手も平気で、何の文句も言わないのです。しかし、日本では、日本人は人の絆を相当重視しています。きちんと挨拶をして、正しい礼儀をすれば、人間の絆をちゃんと維持できます。そして、お互いに、相手に迷惑をかけ

てくるからです。そして、言葉より、最も重要なのは以心伝心ということ。確かに、国籍が違って、言葉、生活習慣、考え方などは少なくともずれがあります。しかし、真、善、美への追求は絶対全世界で一致すると思っていま

す。いつも遠慮して、本音を言わないで、だれとも積極的に接しなければ、言葉はどのようにうまくても役に立たないと思います。相手のことを気にかけて、心から感激を以て、正々堂々と接すれば、何でもうまくできると信じています。

恥ずかしいですが、半年来、私は先生方には何もできなくて、逆にずっと先生から面倒を見られて、いろいろなことを教わりました。言葉の勉強だけではなくて、日本の風俗習慣、日本人の考え方、そして人生の過ごし方も一から十まで説明し、教えてくれました。そのほかに、いつも美味しいものを御馳走し



美味いものを御馳走し、予式を開いてくれました。森村お母さんはきちんと袴を着られて、いい思い出を持たせようと思いき合ってくださいました。先生たちとバディのみなさんは「さようならパーティー」を開いてくださいました。心から「さようなら」を言いたくない、またここで生活したいが、現実には厳しいので、帰らなければならぬので、本当に悲しくて、感動いっぱい、複雑な気持ちでした。一言を話した時、思わず、涙いっぱい出て、何を言ったらいいかわからなかったのです。本当に来られてよかったです。茨城キリスト教大学で留学できて、やさしい先生たちと出会えて、本当に幸せで、私の人生が一番貴重な財産となります。そのような絆はもう私の生命に溶け込んで、私の人生の一番大切な思い出になります。



第一回海外文化研修 「祈りと歴史の旅」 フランス 芸術の都パリ 自分の目で見れた

文化交流学科

鈴木 望 3年

中でも鏡の回廊はたくさんさんの鏡で覆われていてとても美しかったです。またおみやげ売り場にはたくさんさんのマリナー・アントワネットグッズが売ら

また今回の研修ではアパルトマン型のホテルに滞在し、スーパーやパン屋さんに買い物に出かけることでよりパリでの生活を実感することができました。中でもマルシェとよばれる朝市にはたくさんさんの果物や野菜が売られていて、チーズ屋さんやお花屋さんまでありました。私はフランスに来たらチーズを食べることを楽しみの一つにしたいと思えました。また私は全員参加の

私は2月22日から3月3日まで海外文化研修生としてフランスに行ってきました。第一回目となる今回の研修は「祈りと歴史の旅」というテーマのもとに行われ、フランススコ・ザビエルの聖地を巡る街歩きやヴェルサイユ宮殿、モンサンミッシェル、ノートルダム大聖堂といった多くの世界遺産を訪れるものとなりました。ヴェルサイユ宮殿内はとて煌びやかな装飾が施されており、

また今回の研修ではアパルトマン型のホテルに滞在し、スーパーやパン屋さんに買い物に出かけることでよりパリでの生活を実感することができました。中でもマルシェとよばれる朝市にはたくさんさんの果物や野菜が売られていて、チーズ屋さんやお花屋さんまでありました。私はフランスに来たらチーズを食べることを楽しみの一つにしたいと思えました。また私は全員参加の

ルルーヴル美術館の他にオルセー、オランジュリー、ロダンといった美術館も訪れました。『モナリザ』や『考える人』など雑誌やテレビでしか見たことがない作品を直に自分の目で観賞出来たことがとても嬉しかったです。さらに街へ出ると広場やメトロの中であんなに音楽家にも出会いました。日本ではなかなか見られない光景だけにさすがは芸術の都・パリだなと思いました。



夜のエッフェル塔を背に

一年間を振り返って 人との出会い、そして絆

東日本大震災から始まり様々なことが起こった昨年度、そんな年を振り返って皆さんはどんなことを思うのでしょうか。ここでは基礎演習で学生が書いたレポートをひとつ掲載します。皆さんも振り返ってみてください 編集部 大砂

昨年はいろいろな体験した年でした。3月の東日本大震災の時はバイトの先輩たちと地震が起こる30分前で遊んでいてちょうど地元に戻ってきたところで地震にあいました。何が起きたのか受け止められなくて、信号は止まってしまっしバニックでした。水も電気も使えない日々が何日か続いて夜は余震を恐れてあまり寝られず、今思うとすごく大変だったけれどいろいろ

5月からは本格的に授業も始まって毎日が新鮮でした。テストの時はどんなふうに勉強すればいいのか分からなくて苦戦しました。そして、6月くらいから教習所へ通い始めました。教習所と大学とバイトの生活はきつかったけれどなんとか乗り越えられました。夏休みは、ゴールデンウィークにバイトが出来なかつた分、お盆とかバイト三昧でした。バイトのメンパーは、年齢問わず仲が良

いろいろな人と協力して情報交換したり、家族、近所の人、友達、アルバイトのメンパーが心配してくれたり絆を感じることが出来ました。4月は予定より遅く入学式がありました。携帯のSNSとかで同じ学科に行く人と知り合ってメールしていた人とはじめて会って喋ったり、推薦で受けた人で事前授業とかで何度か会った友達と久しぶりに再会したり、たまたま隣にいた子に話しかけてその場で友達になったりなど、緊張はしていたけれどこれから始まる大学生活にわくわくしていました。

くてもみんなで花火したり、海行ったり、ご飯食べに行ったり、たくさんの思い出を作ることが出来ました。

8月には、災害ボランティアとして宮崎県の石巻に2泊3日で行って来ました。津波によって本当に何も無くなっていて、とてもショックを受けました。そこでは、他のボランティア団体と協力して側溝の泥を取ったり民家の片づけをしたり、普段出来ない体験をすることが出来ました。2日目のボランティアが終わった後にはC科のメンバーと食事をして、そこで食べた初めての牛タンは、柔らかくてめちゃめちゃ美味しかったです。復興するまでは時間がかなりかかると思うけれど、石巻市は海が目の前できれいなところなので復興したら石巻市に行きたいなと思いました。

からは部活とサークルにも参加して行きたいと思えます。

10月は国内旅程管理主任者の資格を取るために夏休みから勉強して実際にバス研修をして取得することが出来ました。旅行業に興味があったので実際に法令とか専門的なことを学ぶことが出来たし、実際の添乗員と同じ仕事をしたので緊張したけれど貴重な体験が出来ました。佐野厄除け大師、佐野プレミアムアウトレット、などを添乗しながら観光も出来たので、佐野厄除け大師ではお守りを購入したり、アウトレットでは少ない時間ですが買い物をしたりしました。違う学科の子とも友達になれて良かったです。

た。夏休み同様バイトばかりだったけれど充実した冬休みをすごせました。

冬休みもほぼ毎日バイトでした。年末年始は普段の倍くらい混むので大変でした。でも休みをとってライブやイベントに何回か行くことが出来たし、高校の友達と遊んだり出来たし、バイトのメンバーともバイトが終わってから毎日遊んでいました。年越しの瞬間もバイトの先輩の家族と居酒屋でカウントダウンしました。



2011年4月 新入生交流会



バーに支えられてがんばって来たので、就職が決まるまではこのバイトを続けて行きたいと思っています。

1月24日にはバイトも3年目を迎えます。高校1年の冬からオープンメンバーとしてはじめたので、まだその頃は先輩がいなくて誰かに頼っていた自分もいたけれど、今は、先輩がたくさんいて、今後は、後輩がたくさんできて仕事の内容を教える立場になって責任感も出てきたので、自分が研修の時にトレーナーに厳しくも分かりやすく教えてもらったように後輩たちにも丁寧に教えられて頼られる自分になりたいです。何度も辞めたいと思った時もあったけれどそのたびにバイトメン

2年生は、人との出会いや絆、出来ごとがたくさんあって充実した1年だったので、今年も昨年同様公私ともに充実した1年を送れるように積極的にいろいろなことに挑戦していく年にしたいと思います。

大学生生活では、今まで以上に資格をたくさん取得して、ざっくりとした業種ではなく、何になりたいのかをきちんと決めて夢に向かって頑張っていきたいと思っています。

rongorongo 編集部員大募集!

その文化交流学科のあなた、あなたの力でrongorongoをもっと面白いものにしませんか? 学年、性別関係なし、活動した分のお給料ももらえます!! 特に新聞社やテレビに興味のある人はいい経験になります。やらなきゃ損!

ロンゴロンゴとは南太平洋ポリネシアのイースター島で昔作られていた「物を言う板」です。この板には文字のよなものが書いてありました。この文字はまだ解読されていないそうですが、これは島の人々に歴史や情報を伝える板でした。

- 編集部員の主な活動は、
- 内容の決定
- 原稿の依頼
- インタビューをする
- パソコンで記事の編集作業
- 完成品の配布
- 文化交流学科の最新ニュースをいち早く知れたり、留学生たちと仲良くなるチャンスもあります。
- また、新聞の編集作業で自分のスキルアップも出来る出来た時の達成感も魅力です。
- 詳しいことが知りたい、実際に見学してみたい、ちよっと気になる...そんな方はぜひ、藤田先生に連絡して頂くか、下記のアドレスに学年、氏名を記入の上、連絡してください。
- 参加を待っています。

連絡先 kaminaki10@yahoo.co.jp 代表者 大砂

春です。一年経つのは早かったと思う今日この頃です。

2月には文化交流体験でスリランカに行ってきました。初めての海外で不安もいっぱいでしたが、みんなで楽しく過ごせました。行って良かったです。これからもどんどん世界に飛び出していきたいと思います。

【大砂友美】

好きなお菓子はままだおるの遠藤です。短い春休みも終わりです。睡眠と食事以外はネットとゲームしかやってなかったです。文化交流体験にも参加して楽しい春休みでした。最近ほポケモン最新作を楽しみにしている日々です。

【遠藤緑子】

このところ『閔妃暗殺』『伊達順之助伝』『天山を越えて』『塔里木秘教』『東方見聞録』などをグーグルアースを見ながら読んでいます。並行してウォールストリートの歴史をグーグルなしで読んでいます。後者は、金融という世界をすくは理解したいと思っております。後者は、書き手の問題なのか、まるで魅力的な人物が出てきません。非常に細胞的な幼稚な人々ばかり。別系列でVickram ChandraやNaqib Mahfouzも読んでいるのですが、こちらには人間文化が息づいています。

【藤田悟】

編集後記